

「復興を推し進める心の力」

—福島、東北の明日のためにストレスと向き合い、心の底力を取り戻す—



2012年3月仙台市にて行われた市民向けプログラムの様子



2012年9月仙台市にて行われたアゴラの様子

2013年7月13日(土) 10:30-17:30

市民・合同コミュニティワークショップ

「アゴラ：危機における人と集団の底力」

10:30-12:30 オープニング講演

「底力の可能性 Power from the ground state」

講師

小谷 英文 (IADP Trauma/Disaster Task Force 日本代表)

剣道演武

小池 總明 (剣道教士・仙台泉区剣道連盟副会長)

小野寺 恵子 (剣道教士)

12:30-13:30 ランチタイム・個別相談

個別相談ブースにてご希望される方の相談をお受けします。

13:30-16:30 市民向けワークショップ

心を動かし、自分らしさに触れ、震災の重荷を下ろし、心に潜む力を取り戻すためのワークショップ

16:45-17:30 大グループ

参加者全員参加のグループで、一日の体験を言葉にし、味わいます。

詳細は、中面をご覧ください。

2013年7月14日(日) 14:00-16:30

市民公開シンポジウム

「震災PTSDと心に潜む力ー今とこれからー」

司会

セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所)
米国9.11テロ事件後のPTSD対策リーダー

橋本 麻耶 (PAS心理教育研究所)

PTSD治療プログラム「ストーリー・メイキング・グループ」開発チーフ

発題

宮城より 足立 智昭 (宮城学院女子大学 教授)

宮城県におけるPTSD治療・予防活動リーダーの1人

福島より 橋本 和典 (第19回IADP年次大会 大会会長)

福島県におけるPTSD治療・予防活動リーダーの1人

ディスカッション

牛島 定信 (三田精神療法研究所)

うつ病の精神療法治療の権威

吉松 和哉 (式場病院)

統合失調症の集団精神療法の権威

ラルフ・モーラ (アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所)

戦争PTSD、子どものPTSD治療の権威

詳細は、裏表紙をご覧ください。

会 場：郡山市民交流プラザ (ビックアイ7F・福島県郡山市駅前 2-11-1 / JR 郡山駅西口徒歩 1 分)

対 象：東日本大震災を体験した方、震災後の心の復興、心の健康、PTSD に関心のある方

参加費：無料

大会ウェブサイト：<http://www.iadp.info/>



主催：国際力動的心理学研究会 (IADP)

共催：ライオンズクラブ心の復興プロジェクト (ライオンズ
クラブ国際協会 332-C 地区他) 震災復興心理・教育臨
床センター

福島心の復興支援協議会

後援：福島県

福島県教育委員会

郡山市

国際集団精神療法集団過程学会 (IAGP)

(公財) 郡山コンベンションビューロー

第19回年次大会 大会会長挨拶



東日本大震災から2年が経ちました。その衝撃はいまなお大きく、個別性をもって見える形、見えない形でなお続いています。特に、福島は、原発の問題を抱え、物理的安全の確保すら不安定な環境の中で、不安、緊張の中に晒され、生きている現状があります。震災以降の2次、3次、4次と累積される心の傷(トラウマ)は、見えない不安とも重なり、ストレスを増大させ、心身の力を奪い、多くの悪影響を引き起こします。慢性疲労、睡眠の乱れ、ストレスによる体調不良にはじまり、うつや蔓延、成人病の増加、子どもたちの癌不安、普段ならありえない不注意の事故、虐待や暴力、そして痛ましい自殺の問題まで、その悪影響は現実化しはじめています。

国際力動的心理療法研究会 (IADP) は、これまでの2年間、宮城県仙台市に設立したライオンズクラブ心の復興プロジェクト震災復興心理・教育臨床センター(通称EJセンター)と共同で、精神分析、力動的心理療法の立場から、震災支援に当たってきました。個人や社会によって隠され見えにくくなる心の傷、PTSDの予防と治療活動です。力動的心理療法、そしてそれを応用した心理療法的介入の目的は、心の苦しみをマイナスから0にすることを超えて、震災以前よりも、心を元気に遅くすることにあります。しかし、その必要性を訴え、求める声は、十分には届いていません。「震災のことは忘れたい」と自分の痛みを見ないようにする個人の回避が、社会の回避と重なり、震災PTSDは遷延しています。そこで、前回の仙台大会に続き、IADPは、今なお危機感の高い福島で、傷、ストレスに向き合い、語り、過重ストレスによって沈む心の底力を解放する取り組みを、福島を中心都市のひとつ、郡山市で行うことを決定しました。

米国9.11テロ後の青年のPTSD治療対策リーダーであったセス・アロンソン(Seth Aronson)先生、戦争PTSDや子どもの外傷治療の権威であるラルフ・モーラ(Ralph Mora)先生、日本の精神分析、精神医療を牽引してこられた牛島定信先生

や、吉松和哉先生をはじめ、日本国内外から第一線の専門家が駆けつけ、うつやPTSDに関連した専門家向けの充実した訓練プログラムを組むことができました。また、今これからの福島での地域のリーダーシップを期待される、企業、行政、学校、幼稚園、保育園、病院などのあらゆる組織リーダーを対象とした震災支援心理教育ワークショップ「アゴラ」を開催します。中でも、国際集団精神療法・集団過程学会のトラウマ/災害対策特別研究班に属し、IADPの理事長でもある小谷英文先生は、剣道の演武も披露して下さる仙台青葉ライオンズクラブの名誉顧問の小池^{ひろあき}総明先生とのジョイントで、「心の復興」に必要な人の底力を体験できるワークショップを行います。そして大会の最後には、市民公開フォーラムで、EJセンターの足立智昭先生を筆頭に、現在の震災支援の成果と問題点を整理し、全員参加で次のアクションを探求します。東北の、福島の歴史を背負い、地域を生きるこれからの子どもたちが、心を元気に、遅くすることに希望を持てるよう、まず、大人が自分と向き合い、心に潜む元気感覚を取り戻す試みをはじめましょう。福島県出身者として、そして、心理療法の専門家として、この難局に挑み、さらなる力を発揮したい方のご参加を呼び掛けます。「ストレスに強い福島、東北の再生を!」と。

第19回年次大会大会会長
橋本 和典, Ph.D., CGP

大会会長プロフィール

1973年福島県須賀川市生まれ。東京大学大学院教育学研究科修士課程を経て、国際基督教大学大学院博士後期課程修了。博士(教育学)。心理療法家(臨床心理士、全米公認集団精神療法士)。現在、東京目黒区にある心理療法専門機関のPAS心理教育研究所臨床心理部門主任。東京大学駒場学生相談所、立教大学非常勤講師。専門は、精神分析的な心理療法および集団精神療法。震災後からPTSDの予防・治療活動を行い、2013年5月に「福島心の復興協議会」を立ち上げる(事務局長)。主著に、『青年期退行性困難患者における自己破壊性脱却機序』(博士論文)、「アイデンティティ教育」「人格障害の集団精神療法」「男性の成熟性—集団同一性から自我同一性へ」など。

大会副会長プロフィール



セス・アロンソン, Psy.D., CGP, FAGPA

9.11における子どもや青年のPTSD対処の指揮をとる。代表的な著書『Group Treatment of Adolescents in Context』(Saul Scheidlinger, Fady Hajalと編著)。ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所(ニューヨーク)フェロー/ファカルティ/トレーニング・スーパーバイジング・アナリスト、マンハッタン精神分析研究所ファカルティ・スーパーバイザー、ノースウェスト精神分析センター(シアトル・ポートランド)ファカルティ、ロングアイランド大学客員教授。

アゴラ：危機における人と集団の底力

震災のこと、その後2年の苦労の中での腹の底にある怒り、痛み、喜び、思い、心配ごと、ストレスは自由に語れますか？ 連れ合いとは？ 同僚とは？ 子どもたちとは？ これが率直に語れない、震災PTSDのサインです。子どもたちの将来のためにも、まずは、大人が、青年が、自分のストレスに向き合い、ストレスも、底力も解放し、この難局を突き抜ける逞しい心の力を鍛え、PTSDに打克つ一歩をはじめてみましょう。

アゴラとは

現代社会に生きる市民が集まり、大事な心のことを語り合い、エネルギーと情報を行き交いさせる、現代版の広場（アゴラ）を作る試みです。市場の出店のように開かれるワークショップに参加し、心を動かし、震災・被災にまつわる想いに安全に触れ、心の底力を体験し、取り戻すプログラムです。2012年3月と9月に仙台市で開催し、東日本大震災を体験した多くの方が参加し、「震災後初めて泣けた」「初めて語れた」という声もあがりました。

アゴラ：市民向けワークショップ紹介

危機を越えるリーダーシップ

講師：橋本和典・中村有希・伊藤裕子・荻本快
対象：組織の長（企業やあらゆる組織の要職に就かれている方）

定員：7名

狙い：震災ストレス下の組織運営リーダーシップ能力のアップ。

何をするのか：底力の解放、集団・個人の力学の読み方と介入訓練。

ジョーク・ワークショップ

講師：石川与志也

対象：青年（高校生・大学生・専門学校生など）

定員：8名

狙い：ジョークが我々の心を逞しく自由にすることを体験的に学ぶ。

何をするのか：ジョークを聞いてみる、言ってみる、作ってみる。

教育的対話

講師：西川昌弘

対象：保育士・幼稚園教諭・教師・カウンセラー・一般の成人

定員：12名以内

狙い：相手と自分の心が生き働く教育的対話法を学びます。

何をするのか：覚醒した五感で自分と場所、相手に関心を払い、心が働くことを確認します。

親子のStory Making Group (SMG)

講師：橋本麻耶・花井俊紀・足立智昭・西浦和樹

対象：親子で参加ください

定員：親子4組

狙い：震災で止まった時、場を取り戻し、心をしなやかにする。

何をするのか：お話作りを通して、自分、子、親、他人の心にふれる。



アゴラ・ワークショップ (2012.9.2)

積み木遊び

講師：川村良枝

対象：子どもの遊びに関心を持つすべての方

定員：7名

狙い：子どもが遊びを用いて体験し訴えていることを理解する。

何をするのか：積み木を使った遊戯療法を体験する。

サポートグループ

講師：髭香代子・本田美奈

対象：お父さん・お母さん・学生さん

定員：7名

狙い：震災の心への影響のチェックと心の復興の可能性を探る。

何をするのか：震災に関わる思い、傷、怒り、悲しみを語るグループ。

絵本の読み聞かせ実践演習

講師：高田毅・田中令子

対象：幼稚園教員・保育士など

定員：10名

狙い：読み聞かせで豊かな時間・空間を作る技術を向上させ、味わいましょう。

何をするのか：絵本の読み聞かせワンポイントレッスンと、その準備のための発声練習。

震災 PTSD と心に潜むカー今とこれから

「ストレスに強い心の再生を！皆さんの心は、元気でしょうか。大人の心は？子どもの心は？溜まりたまった震災ストレスは放っておくべきものではありません。」と訴えて、この2年半、IADPは震災復興心理・教育臨床センター（EJセンター）と協働し、心の復興活動を続けてきました。ここまでのべ700人の相談者が訪れたEJセンター代表の足立智昭先生から宮城県の今を、福島心の復興支援協議会を立ち上げた橋本和典先生からは、福島県での経験を自由に語っていただきます。そして、日本の精神医療を牽引してこられた牛島定信先生、吉松和哉先生、そして戦争災禍に苦しむ米国の子ども、青年のPTSD治療の権威であるラルフ・モーラ先生からの議論も交え、今これからの東北の心の復興の課題を共有し、参加者それぞれの立場で、発信し、考え、感じ、前進するための一歩を確認していく全員参加のシンポジウムです。市民の皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。司会の任は、米国9.11テロ後の思春期の青年のPTSD対策リーダーであったセス・アロンソン先生、そして、震災支援プログラムの開発・実践を行っている橋本麻耶先生に取っていただきます。



司会：セス・アロンソン



司会：橋本 麻耶



発題：橋本 和典



発題：足立 智昭



ディスカッサント：牛島 定信



ディスカッサント：吉松 和哉



ディスカッサント：ラルフ・モーラ

お申し込み方法

同封の参加申込書（A4 2 ページ）に必要事項をご記入の上、郵送、または FAX で大会事務局（下記参照）までお申込みください。

参加申込み締め切り：2013 年 7 月 7 日（日）

参加費：無料

※ 個別相談は、当日申込み可能です。

※ ご不明な点、ご質問などございましたら、お気軽に大会事務局までお問い合わせください。

宿泊に関して

大会事務局では、7月12日、13日に、郡山ワシントンホテル（<http://washington-hotels.jp/koriyama/>）を50部屋確保しています。学会会場から徒歩5分と便利な立地となっていますので、ぜひご利用ください（1泊6000円）。部屋数が限られていますのでお早めにお申込みください。

ご希望の方は、申込用紙のホテル希望欄にチェックをつけてください。

大会事務局

国際力動的心理療法研究会 第19回年次大会事務局長：
石川 与志也（東京大学駒場学生相談所非常勤講師）

大会事務局： 〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9 PAS 心理教育研究所内

TEL & FAX： 03-6407-8201

学会ウェブサイト：<http://www.iadp.info/>

メールアドレス：iadp@iadp.info

国際力動的心理療法研究会第 19 回年次大会
 市民向け心の復興支援プログラム
 『復興を推し進める心の力』
 参加申込書

ふりがな			歳	男・女
氏名				
連絡先	〒 TEL (&FAX) E-mail			
ご職業	職種			
	所属先名称			
	所在地	〒 TEL (&FAX)		

■ 参加プログラム

参加を希望するプログラムに○印を付けてください。

7月13日(土)	市民向け震災支援プログラム「アゴラ」: 震災後の心に潜む力の発見と地域復興	参加／不参加
7月14日(日)	市民公開シンポジウム 「震災 PTSD と心に潜む力ー今とこれから」	参加／不参加

■ 大会期間中の宿泊施設について

事務局でご用意いたしました郡山ワシントンホテル(一泊 6000 円朝食付き)のご利用をご希望される方は、以下の「希望する」に○印をお付け下さい。

(<http://washington-hotels.jp/koriyama/>)

7月12日(金)	希望する／希望しない
7月13日(土)	希望する／希望しない

*部屋数に限りがございますのでお早めにお申し込み下さい。

「アゴラ」ワークショップ

7月13日(日)のアゴラに参加される方は、参加をご希望されるワークショップの欄に、第3希望まで、①～③とご記入ください。

1. 危機を越えるリーダーシップ (定員：7名) 対象：組織の長(企業やあらゆる組織の要職に就かれている方)	
2. 教育的対話 (定員：12名内外) 対象：保育士・幼稚園教諭・教師・カウンセラー・一般の成人	
3. 親と子の Story Making Group (SMG) (定員：親子4組) 対象：親子で参加ください *一緒に参加されるご家族(お子様・ご父兄など)の人数と、それぞれのお名前・年齢をご記入ください。 ()	
4. 積み木遊び (定員：7名) 対象：こどもの遊びに関心を持つすべての方	
5. 絵本の読み聞かせ実践演習 (定員：10名) 対象：幼稚園教員・保育士など	
6. ジョーク・ワークショップ (定員：8名) 対象：青年(高校生・大学生・専門学校生など)	
7. サポートグループ (定員：7名) 対象：お父さん・お母さん・学生さん	

■ 参加動機・期待

宜しければ、参加の動機・プログラムへのご期待などお聞かせ下さい。

国際力動的心理療法研究会

第19回年次大会事務局

PAS心理教育研究所内

住所：〒153-0041 東京都目黒区駒場2-8-9

Tel & Fax : 03-6407-8201

